

産地パワーアップ事業の取組事例

(北海道)

取組の概要

取組の概要 : 労働力不足等に対応した高性能作業機の導入による生産効率化
計画作成主体 : 浦臼町加工用ぶどう生産振興会
対象品目 : 醸造用ぶどう(産地面積: 78.4ha)
主な取組主体 : (有)鶴沼ワイナリー
成果目標 : 販売額の10%以上増加(単位当たり)
助成金の活用 : 生産支援事業(機械リース)
状況 (防除機 4台他)

ポイント

労働力不足と現有機械の能力不足に対応し、適期作業を可能とする高性能作業機械のリース導入及び改植(果樹経営支援対策事業)による園地の若返りにより、品質・単収の向上を図り、販売額の10%以上の増加を実現。

地区の概要



産地の現状と目標

〈現状:H28年度〉

作付面積: 78.07ha、出荷数量: 164t
販売額: 11.1万円/10a
労働力不足と作業機械の能力不足により適期作業に支障を来し、収量が低い

〈目標:H31年度〉

作付面積: 78.4ha、出荷数量: 191t
販売額: 12.4万円/10a
適期作業の実施により品質向上と収量の増加が図られ、販売額が増加



推進体制

産地の関係者(産地協議会・醸造用ぶどう生産者・浦臼町)が一体となり、事業の推進に取組む。また、空知総合振興局ワイン室との連携により浦臼ワインのブランド化に取組む。

地域における独自の取組

〈主な取組〉

○ 収量向上に資する新技術の実証、実需に対応した新品種の導入検討

〈道・市町村単独事業〉

○ 空知産ワインのブランド化の推進、食・景観・体験等資源との連携強化

〈国庫補助事業〉

○ 果樹経営支援対策事業の活用によるMH・AM品種への改植の推進

事業効果

- 高性能機械をリース導入することにより、適期作業が可能となり、収量・品質の向上や販売額が増加し、農業所得増加と醸造用ぶどう産地の強化が図られる。
- 改植による園地の若返りについては別の補助事業活用により、生産性が向上。

～醸造用ぶどうの販売額～

